

令和5年度「市長と語り合う会」について（二川地区）

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和5年 8月21日（月）	二川公民館	19:00～19:35	5		5

- 市側出席者
市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

2 会の概要

- 開 会（秘書課長）
 - ・ 会の趣旨説明
 - ・ 出席者紹介
- あいさつと市政運営の説明（山本市長）

1. 令和5年度 施政方針の考え方

・ウィズコロナからアフターコロナへ

新型コロナウイルス感染症については、令和2年2月頃から日本でも影響が出始め3年半大きな影響があったが、本年3月からマスク着用が個人の自由となり、5月からは感染法上の位置付けが5類に引き下げとなり、季節性のインフルエンザと同じ扱いになっている。一方では、市内の医療機関の感染者数の情報では、かなり流行している。地元経済の振興と感染拡大の防止の両方を考慮し対応していきたいと考えているが、地元経済の振興に少しずつ舵を切っていきたい。

・持続可能な未来都市の実現

持続可能な未来都市というのは、様々な捉え方があるが、一つは、現在の気候変動への対応が挙げられる。この気候変動の原因は、地球の気温を高める効果のある温室効果ガスを排出しすぎているためと言われている。特に二酸化炭素の排出量を減らすよう化石燃料に帰らない社会の在り方に変えていかなければならないと言われている。市では、これまで照明施設をLEDに変えたり、施設の屋根に太陽光パネルを設置する等行ってきた。また、昨年度には、共用車の内1台を電気自動車に変えた。先日は、関連会社と協定を結び、市内の公共施設30カ所に約100機の電気自動車の充電ステーションを設置することにしている。電気自動車は、二酸化炭素の排出量が少ないので、市としてもそういう方向に舵を切っていきたいと考えている。

持続可能などという意味では、コロナのような感染症にどう対応していくかという事もある。特にコロナが流行った頃には、リモート会議やリモートワーク等が普及してきたが、市もIT技術を使い業務を効率化したり、市民サービスを向上させていくといったデジタルトランスフォーメーションを進めている。特に本年度から、亡くなられた際の手続きを、出来るだけ1カ所で済むようにする「おくやみ手続サポートサービス」を始めている。今後は、窓口で申請書を書かないで、職員が聞き取り処理する「書かない窓口」を行う事としている。

もう一つ持続可能という意味においては、市の行財政運営の持続可能性も重要である。特に財政の歳出を減らし歳入を増やし、財政の運営を長続きするようにしていく事も重要である。これについても、市民の皆様のご理解を頂きながら、これまで進めてきた行財政改革の努力を継続して行きたいと考えている。

2. 令和5年は様々な節目の年

・JR益田駅開業100周年

大正12年4月にJR益田駅が開業し、この時に山口線が益田駅に繋がり全線開通した。実はその年の秋には、山陰本線も益田駅まで繋がった年であった。

JRについては、昨年JR西日本の地方路線の収支状況が公表され、厳しい状況が明らかにな

った。これまで市では、鉄道の利用促進につて大きな動きはしていなかったが、県内でも路線の廃止の動きが出ているので、今後は、市民の皆様にご利用を呼び掛けたり、JRに対しても地元と連携し利用促進を進めていきたい。

・萩・石見空港開港30周年

平成5年の7月2日に開港したので、今年が30周年となる。東京線については、今年の春に2往復運航が令和7年3月まで継続されることが決まったところだが、その後の継続については未定なので、引き続き利用促進に努めていきたい。

大阪線は、夏の間だけ限定運航であるが、期間が延びるようまた維持できるように、利用促進に取り組んでいきたい。

空港の利用促進についても、皆様の利用についてご協力をお願いしたい。

・柿本人麿没後1300年

今から300年前の享保8年に1000年忌が行われ、朝廷からも柿本大明神という神様に祀ることが決められたことから、今年が1300年という事になる。地元の方を中心に没後1300年を記念した様々なイベントが企画されている。人麿も雪舟と並び益田を代表する文化的な偉人であるので、これを機に文化振興に努めていきたいと考えている。

二川地区においては、宿泊交流施設の指定管理を地元の地域自治組織に運営努力していただいております。市としても連携、協力し持続可能な地域となるよう努力してまいります。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 風力発電について
- ② 南北連絡橋について
- ③ 地域自治組織について
- ④ 旧道の管理について

○ 閉会（秘書課長）

令和5年度「市長と語り合う会」

〔会場 二川公民館 開催日時：令和5年8月21日（月）19:00～19:35〕

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 風力発電について 風力発電建設の計画があるが、反対はしない。環境破壊と心配される方もいるが、地元では、山は生きていると思っているし、風の強いこの地域の自然エネルギーが活かされるので、ぜひ進めてほしい。市長のお考えを聞きたい。</p>	<p>① 市として地元の意見を県知事に伝え、県知事が国へ意見し決定される。市の考え方としては、風力発電そのものは、持続可能な再生可能エネルギーによる発電なので進めていくべきである。一方で、建設に伴い、水質への影響等を懸念する意見もあるので、事業者へは、地元の方々の不安を払拭するよう十分な説明を行ったうえで進めて頂きたいと言っている。基本的には、住民の理解を得る努力をしっかりと頂く事を条件に進めていくべきというのが、市の考え方である。</p>
<p>② 南北連絡橋について 個人的には、意味はないものと思っているが、どのくらいの規模で、どのような経済効果が期待できるのか。</p>	<p>② 財政非常事態宣言の前に計画等進行していたが、それ以降は凍結した状態である。事業の規模としては、徒歩による連絡橋で、2階に改札口がある構想である。効果としては、駅前が北口にも出来ることにより、民間主導の開発が期待でき、また利便性も増すことになるが、一方でJRの利用者数が減少し駅前の価値も低下しており、今の改札を活かし通路のみの建設という意見もある。今後実現していくとなると、改めて検討しないといけないが、今は、事業の規模や効果等を慎重に見極めている段階である。</p>
<p>③ 地域自治組織について 地域自治組織に対する市の関わり方において、規模の大小により予算配分等に差があるのか。また、活動すれば変わるのか、市がどのように評価し適切な予算配分をするのか、その辺の基本的な考え方をお聞きしたい。</p>	<p>③ 基本的には、全地域自治組織に、それぞれ均等の予算と人口規模に応じた予算の2本立てとなっている。組織の維持も交付金で対応しており、何らかの有益な事業をされる場合は、活動の補助金を交付する等、何段階かにより財政的な支援を行っている。</p>
<p>④ 旧道の管理について 県道の新設改良により、旧道が市に移管されていると思うが、全く管理されていないところもある。今後、そういった道路が増えてくると思われるが、廃道にするのか維持管理していくのか市長のお考えを聞きたい。地域住民の賛同が得られるなら、廃止すべきと考える。そうでなければ、適切に管理しないと何かあった場合市の責任となる。</p>	<p>④ 道路が整備され機能が果たせれば、元の道路は廃止することもできるが、今まで市道として管理していた箇所を、今後市は関知しないこととなると、反対される方もおられると思うので、その辺りの理解が得られるかが大きい。全国共通の課題であるが、まだ国も先導していないので、有効な方針は出来ていないのが現状である。頂いた意見を参考に検討していきたい。</p>